



**日時** : 2019年2月16日 (土)

**集合** : 小田急小田原線伊勢原駅 10:00

**コース** : 伊勢原駅→大慈寺→太田道灌首塚→高部屋神社→咳止地藏尊→三所石橋造立供養塔→洞昌院  
→七人塚→上粕谷神社 (昼食) →大山道標 (旧石倉橋) →日々多神社→這子坂→駐車場→愛宕滝  
→良弁滝→大山ケーブルバス停 (バス) →伊勢原駅 20,000歩 約14km

**参加者** : 熊坂 L 含め合計 31名 青字感想文

1班 : 河野班長・勅使河原・大平・小野里・佐藤繁・宮野・市村・丹後・武倉・畠・吉田正 11名

2班 : 清水正班長・平石・高橋文・青松・平野・伊藤美・高橋紀・平林・奥村・高橋友 10名

3班 : 長井班長・熊坂 L・伊藤真・平山・小林・福士・中村ゆ・志村・中林・鈴木孝 10名

地図 :



天気も曇りのち晴れの予報で②に続いて③2回目の参加。距離も②約20,5kmに対して③14kmと短く、参加者は前回26名より5名増えました。伊勢原駅標高38mから北上して柏尾道から西へ、道標や神社を見ながら後半は這子坂を含め少しずつ標高を高め、第三の大鳥居をくぐり、愛宕滝、良弁滝を見て、豆腐坂を登り切り、ここから戻って大山ケーブル駅バス停標高310mへ。そしてバスで伊勢原駅へ。④は最後大山山頂です。

**伊勢原駅**

熊坂Lお一人笑顔でお迎え資料渡し 9:30既に多数のメンバーがお集り



伊勢原駅構内には伊勢原市「大山詣り」の宣伝が目立つ

近くの公園で熊坂Lによるストレッチ



コース説明と班長及び感想文氏名（資料に記入済）の紹介

早速紅白の梅に歓迎されました



**太田道灌首塚**

太田 道灌（おおた どうかん）は、室町時代後期の武将。武蔵守護代・扇谷上杉家の家宰。摂津源氏の流れを汲む太田氏。諱は資長（すけなが）。太田資清（道真）の子で、家宰職を継いで享徳の乱、長尾景春の乱で活躍した。江戸城を築城したことで有名である。武将としても学者としても一流という定評があっただけに、謀殺されてこの世を去った悲劇の武将としても名高い。

太田道灌公菩提寺山門



境内は広い

本堂



大山を背景に



観光めぐり案内図



太田道灌の墓



傍に梅が曇り空に咲きお迎え



お墓の前でお参り



伊勢原市指定史跡  
**太田道灌の墓**  
 昭和44年2月27日指定

太田道灌は、室町幕府の重臣である扇谷上杉氏の家宰です。永享4年(1432)に相模で生まれたといわれ、幼名は鶴千代、元服して資長と名乗りました。道灌は剃髪後の名です。幼少より父道真(資清)の薫陶を受け、康正元年(1455)に家督を嗣ぎ、長祿元年(1457)には26歳で江戸城を築きました。「文武両道の猛」との誉れ高く、文事では和歌に情熱を傾けてその道に深く通じ、軍事では特に戦略的な才覚に優れて、扇谷上杉氏を守り立てました。しかしその有能さが上杉家宗家の山内上杉顕定に疎まれ、道灌は、顕定の讒言を信じた主君の上杉定正によって暗殺されるという悲劇の主人公となりました。文明18年(1486)7月26日、定正の居館である糟屋館(伊勢原市内、詳しい場所は不明)での出来事です。

道灌の墓は、市内ではこの下糟屋の大蔵寺と、道灌の遺体を茶毘に付したと伝えられる上粕屋の洞昌院にあります。大蔵寺は道灌が鎌倉からこの地に移して再興し、叔父の周叢淑祝禪師を中興開祖としたとされる寺です。現在の本尊である聖観音像も、道灌の持仏であったと伝えられます。墓はいつからか「首塚」と呼び習わされ、宝篋印塔と五輪塔からなる石造の供養塔が祀られています。

平成19年3月  
 伊勢 2019/02/16

**高部屋神社** 本殿は、正面の柱間が五つある五間社(ごけんしゃ)流造(ながれづくり)という形式です。県内の五間社の本殿は、寛永(かんえい)元年(1624)建立の鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)若宮本殿(鎌倉市、国指定重要文化財)、寛文(かんぶん)7年(1667)の箱根神社本殿(箱根町)、享保(きょうほう)3年(1718)の六所神社本殿(大磯町)といった名だたる神社にしか見られません。高部屋神社の本殿は、関東大震災による倒壊後、昭和4年に再建されたものですが、倒壊前(正保(しょうほう)4年、1647築)の旧本殿の漆塗りの残る扉など、主要な古材が数多く再利用されています。再建に当たって、旧本殿の持つ江戸時代前期の雰囲気を残す努力が見られ、当時の関係者の想いを知ることができます。

高部屋神社山門



格調高い本殿



彫り物が素晴らしい



↑見事な彫刻  
←龍の中央浦島太郎と亀  
上段乙姫竜宮城の彫り物

梵鐘1386年奉納の古い鐘に見入る勅使河原さん 高くそびえる樺? 茅葺の本殿



↑木棒はシュロノ木



巨大古木の根を見ながら

この辺りの大山一番形が良く見える



狭い歩道一列で歩いて下さい!



道祖神



しぶた川の傍にある咳止地蔵



**咳止地蔵尊由来**  
 洪田川に架せられた「せきどめ橋」のたもとにある咳止地蔵は古来から痰咳平癒の守護仏として崇められ「せきどめ地蔵」の名で広く霊験を知られた。現尊像は享保八年（一七三三年）の再建になるもので、再々の補修がなされている。地蔵前の古道は相模川の戸田の渡しから大山に通じる「戸田道」で槽屋宿にも程近く大山詣りの道者たちの信仰をも得ていた。現今東京、川崎・立川方面に信者のあるのもそのため、堂のそばには大山道の道標もこざれている。背後の富士山は八王子道にも通じるので昔は彌の市も立った。道路や交通機関の変動で、戸田道は往古の面影もないが地元人士の賛同を得て保存会を結成、堂宇の修理をなし霊蹟の再興を図るものである。  
 昭和五十年三月二日  
 弥杉咳止地蔵尊保存会

「大山道」の彫り物と地蔵さん

何をお話し？皆さんが見ているのは？



この後この「大山街道」表示が見られます 切られた綿の花



**大山道と矢倉沢往還**  
 「ここで道は左右に分かれました」  
 せきどめ地蔵尊前には大山道園の赤色道と矢倉沢往還園の黄色道が通っていて、ここで左右に分かれました。  
 大山道戸田道・青山道は橋を渡ると「ひなた道」と分かれ、峰岸方面へ向い千石堰沿いに台久保から石倉橋を経て大山へ向いました。  
 矢倉沢往還は辨雲寺前を通り片町、串橋、善波を抜け、松田から尾柄方面、矢倉沢へと向かいます。  
 明治の中期頃まで道は洪田川の手前で左右に分かれて川を越えたので橋は二つありました。（明治十五年迅速測図参照）  
 また、ここにある庚申塔は道標にもなっていて「大山道」「ひなた」と彫られています。

11:15 青空が見えてきた

大山道（三軒茶屋）



**大山道（三軒茶屋）**  
 ここは、せきどめ地蔵尊前の道から続く大山道で、平塚、金目観音、伊勢原方面からの道が交差する場所で、江戸時代には多くの人が行き交う賑やかなところでした。  
 ここに三軒の御茶屋があつて、参詣者や旅人はここでお茶を飲んで一休みした後、大山、日向薬師、飯山観音、津久井方面へ向かいました。ここを人々は三軒茶屋と呼びました。その地名はもうも残っています。



この後東名高速道路を潜り抜ける。

東名を潜り抜けると、ここにも石碑がありました。何と書いてありますか？



左の梅も見て頂戴！

枝垂れ梅と青空に映える大山も見えますよ！ 三所石橋造立供養塔



大山道と三所石橋造立供養塔

この道は、江戸赤坂見付(矢倉沢往還)からと、東海道柏尾村からの大山詣りの人達が歩いた大山道で土地の人は「青山道・戸田道」と呼んでいました。

また「三所石橋造立供養塔」は、この場所とこの近辺に架けられた三カ所の石橋(絵図参照)を供養する為に、享和二年(一八〇二)に洞昌院住職と村人達によって建てられました。道に沿って流れるのは大山を源流とする大山川(鈴川)から引水した用水路で「千石用水」または「千石堀」と呼ばれています。

いつ、誰が、何の目的で造ったのかは諸説あり定かではありません。

昔は小魚が泳ぎホタルが飛び交っていたと言います。さぞかし大山詣りの人達の心を和ませたことでしょう。

P1 巻頭の大山写真はここから撮りました



三所石橋造立供養塔

維時 享和 二 壬戌 繪仲 秋吉 祥旦  
 志願 洞昌 十五代 龍堂 友  
 上 粕谷 郷内  
 助力 人足 郷内中 友  
 銘云 拾得 担頭力 不置 他 借肌 庄  
 若 三 橋上 合掌 須通 之 平 左 衛 門  
 咄 人 話 世

2019/02/16

太田道灌の墓 墓石文字：「道灌居士当時葬此地而■曾知者少也野■深■勒石以示路傍人」

洞昌院 曹洞宗

上粕屋にある曹洞宗、蟠龍山（ぼんりゅうざん）洞昌院の境内の一角にあります。本寺は15世紀の武将、太田道灌が中興開基です。室町時代、文明18年7月26日、主君扇谷（おうぎがやつ）上杉定正（うえずぎ さだまさ）



**洞昌院（太田道灌の墓）**  
 蟠龍山洞昌院は、太田道灌が開いたと伝わる曹洞宗の寺です。太田道灌は江戸城築城などで知られる室町時代に活躍した武将で、文武両道の鑑とされています。洞昌院には、太田道灌の墓（市指定文化財）があり、15〜16世紀のものとして推定される宝篋印塔がまつられています。  
 文明18年（一四八六）の太田道灌の最期には様々な伝承がありますが、敵に囲まれた道灌が洞昌院まで逃げ延びたが、門が閉まっており中には入れず、ついに力尽きて刃に倒れたとも言われています。以後、洞昌院には山門に扉をつけずにはならないと語り継がれています。  
 2019/02/16

の糟屋にあった館に招かれた太田道灌は、定正の手の者により殺されてしまいました。55歳でした。道灌の最期については、いろいろな伝承があるようですが、子孫に伝わったものとして、館の風呂場で刺客に襲われ、「当方滅亡」（これでこちらは滅亡するぞ）と叫んで亡くなったとされる話が一番有名です。遺体は洞昌院の裏手で茶毘（だび）に付されたといわれます。墓には宝篋印塔が建てられていますが、年代的にも道灌の亡くなった時期と矛盾しないようです。また、墓前の左右には松の大きな切り株がありますが、道灌の四十九日の供養に当時関東にいた詩僧・万里集九（ぼんりしゅうく）が祭文（さいもん）をささげ、植えた松と考えられます。明治半ばに描かれた墓の絵を見ると、立派な松が二本そびえています。さらに木刀と思われるものが奉納されています。風呂場において丸腰の状態に襲われた道灌に、せめて刀があったならという信仰からのものと思われる。道灌の力により戦乱が鎮まっていた関東では、その死後程なくして扇谷上杉氏と山内（やまのうち）上杉氏との間で戦闘が始まり（長享の乱、ちょうきょうのらん）、やがて北条早雲により両上杉氏とも滅亡に追い込まれることになります。

本殿



洞昌院は墓地も含め境内は広い。大山が眺められる好位置に有りました。

真青の空の下、太田道灌公之墓前で集合写真



太田道灌の墓

七人塚 太田道灌が上杉定正に襲われた時に討死した家臣7名の墓



上粕谷神社：昼食12:00~12:30 10,000歩 以前来たことがある神社でした



**上粕屋神社由緒**

本神社の勧請年月日は詳らかでないが大同弘仁の頃近江の国の日吉神を当所に移し勧請したと伝える。又風土記によれば天平年中に僧良弁の勧請なりと言う。元禄四年辛未社殿を再建し、山王権現と称した。徳川幕府朱印高巻石五斗であった。

明治二年六月日枝神社と改称し、当時の例大祭は三月廿日、読馬神事神樂を奉納、六月二十二日と十二月二日には年の市を執行した。

明治六年癸酉七月、宇、和田内鎮座の熊野神社(朱印高武石)と宇、石倉上鎮座の白山社を合祀し、上粕屋神社と改称した。

更に、昭和三十九年四月、宇、峰岸鎮座御嶽神社を昭和四十一年十月宇、秋山鎮座の五雲神社を合祀して現在に至っている。

御神木



本殿



椅子とテーブル付で最高の場所

小生（赤いバック）古井戸の上でした いつものフルーツタイム



持ち寄りデザート・・・沢山・・・？

談話タイム・・・？

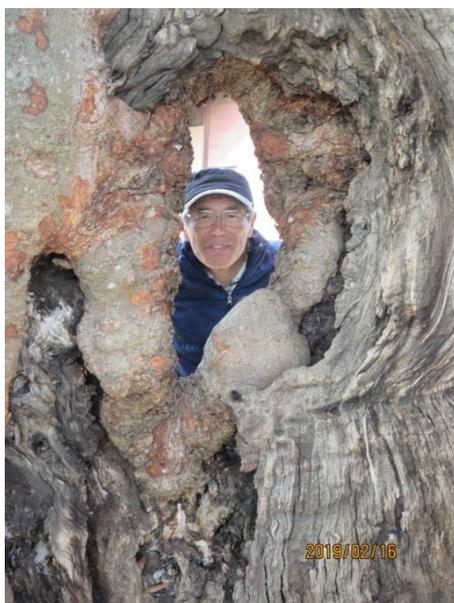
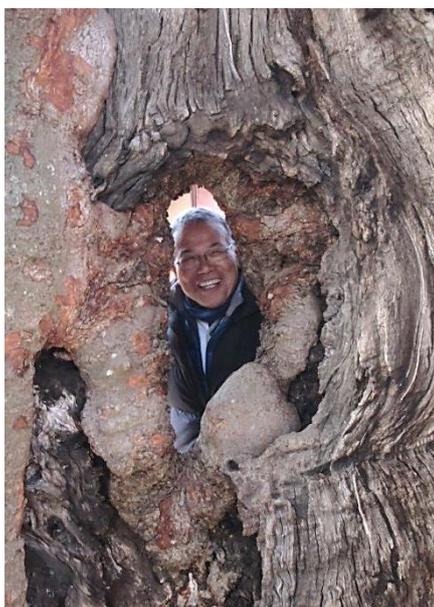


広いテーブルですね！伊藤食後の写真で皆さん既にお茶タイムでした 素晴らしい昼食場所でした



旧称を「山王社」といい、上粕屋村の小名山王原の鎮守であった<sup>[5][6]</sup>。祭神は大山咋神などを祀り、境内社として天王社と八坂社がある<sup>[7]</sup>。その始まりは天平年間（729年-749年）までさかのぼる<sup>[8][9]</sup>。大山寺開創の際、僧良弁がこの地に山王社を勧請したのが起源という<sup>[8]</sup>。別伝では、大同年間（806年 - 810年）および弘仁年間（810年-824年）に近江国から日吉神を勧請して社号を山王社と唱えたものともいう<sup>[7]</sup>。山王社は、上杉館の鎮守でもあった<sup>[8]</sup>。上杉館は扇谷上杉家の本拠だった地で、神社の裏手には館の空堀跡が残っている<sup>[8]</sup>。堀を越えたあたりに広がる台地の一角が上杉館の跡と伝わり、相模野を一望に見渡せる地である<sup>[8]</sup>。かつては日吉山吉祥院（古義真言宗）という寺院が別当寺を務めていた<sup>[9]</sup>。江戸時代に入って1591年（天正19年）11月に朱印状が発給され、一石五斗の寄進があった記録が残る<sup>[6][9][10]</sup>。元禄年間（1688年-1704年）に山王権現、明治初期に日枝神社を合祀して「日枝神社」と改称した<sup>[8][7]</sup>。さらに周辺の小社を合祀して、上粕屋神社と改称した<sup>[8][7]</sup>。毎年12月20日には、神社の社地で年の市が立っていたという<sup>[8]</sup>。

御神木の穴でモデル女性希望者無し 高橋副会長と畠運営委員で！御利益有りますよ！ カンザキアヤメ？



葉もきれいです

鐘楼：突き棒の木はシュロノ木でした 1840年(天保11年)銘の鐘は戦時供出によって失われ<sup>[13]</sup>、現在の鐘は

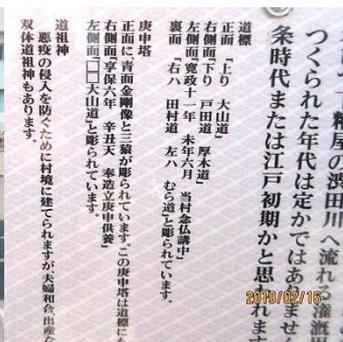


1966年(昭和41年)に鑄造された

上粕谷道 道標

解説は大変ですよ！

説明看板有りました！



庚申塔

大山近くなると山肌が見えて良くない



地蔵さん

腰掛不動尊



12:50

花壇は綺麗ですが遺跡発掘工事の為パイプに囲まれた道標と地蔵さん



柵に囲まれ可愛そう!

鈴川?

新鮮な野菜安いですよ! 伊藤は別の所でミカンを買いました



10個入りで  
¥200



天平の頃、当国守護染谷太郎時忠が国の安土・子宝を願って勧請。安産の祈禱に靈驗あらたかであったと伝わっている。後に、醍醐天皇の勅願所となり、神階・御告文その他旧記等が、天正18年（1590年）小田原落城時に失われた。それ以降、神号を「易産大明神」又は「子易大明神」と称し、安産守護神として崇敬された。式内社である比比多神社のもう一つの論社は同市三ノ宮に鎮座する比々多神社。比々多神社の社伝では「比比多神社」と書かれた古額があったのを子易明神社の神主に貸したところ返さず、子易明神社にこれを掲げて式内社と称したとの話を紹介している。ただし、この話には証拠はない。拜殿の柱は、かつて安産のお守りとして参拝者が少しずつ削って持ち帰ったため（現在は禁止）、細くなっている。

拜殿の内に、美人図絵馬が奉納

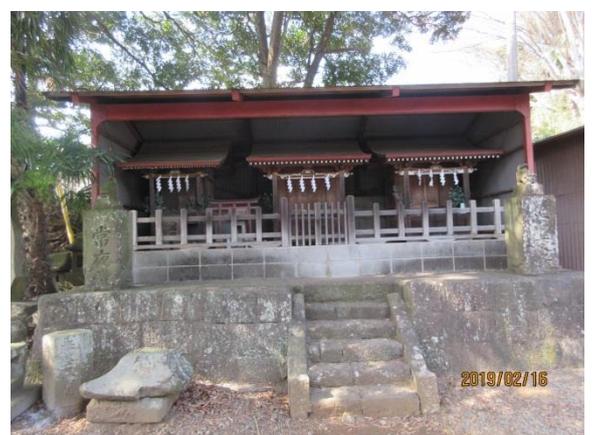
彫刻も素晴らしい

御神木



今更関係ないが孫達の為に参拝しました

江戸時代大山もうでで祈願する女性は多かったと思います



今回行っていませんが元宮資料

比々多神社の「元宮」。本殿裏の環状列石から400mほど、畑を抜けて急な坂道を登った先にあります。かつて比々多神社はこの地にありました。しかし戦国時代の兵火で現在の地に遷ったため、今では畑の中に石で作られた小さな祠があるだけ。 P13



大木も子供が出来ました？ 青空の大山に向かって一列の長い隊列

伊勢原 c c はすぐ傍です



ここにも比々多神社

町家史跡めぐり 旧道這子坂 やはり坂道 後続部隊を待ちます！



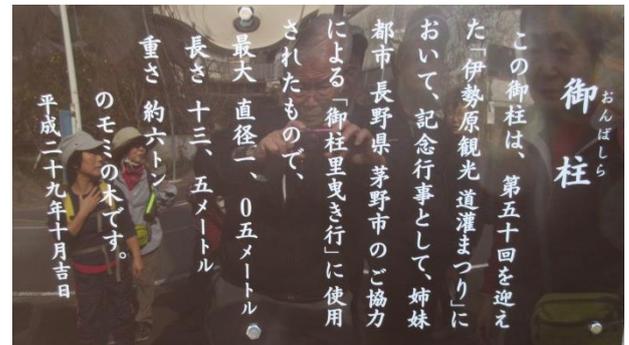
先頭坂上から後続隊の写真撮影 大山が真正面です

伊藤も後続隊撮りました



古木咲き初めの白梅

御柱が2本目立ちます



赤い橋到着しました！



溪谷の流れ



交差点「清水屋」広場休憩13:54



丹沢大山国定公園～ようこそおおやまへ～歓迎アーチ



目立つ赤い橋を渡ります



禊の大滝 集合写真 場所が狭く大滝は少しだけになりました 全員ではありません



愛宕の滝 上の写真ではありません、次頁P16に写真有ります

大山阿夫利神社参集殿洗心閣の先にある滝で、落差約5メートル。大山詣での参拝者が登拝前の禊として心身を清めた大山の6滝の一つ。石組みが組まれた美しい滝。隣に鎮座する火伏せの神である愛宕社と、酒の神である松尾社が往時を偲ばせます。日本遺産の構成文化財一覧に登録されています。

「こちらが禊の大滝です」(P15 集合写真) 赤い熊坂Lガイドさんピッタリです 愛宕の滝 (説明文 P15)



とうふ坂に向かって行く人ストップ！皆さんお土産買い物中です、伊藤五円玉つき純金箔入り御神酒買いました



とうふ坂、神谷さん大山街道⑨で泊まった先導師旅館「古宮」 翌朝男坂を登りました (2012. 11. 6)



良辯僧正は東大寺の初代別当で相模の国の人、持統天皇三年(六八九)に誕生し、宝龜四年(七七三年)入滅と東大寺要録に書かれている。大山では、東大寺二月堂の大杉に懸けられた良辯僧正が、山王の使いてある様に懸けられたという伝説がある。このお堂には、僧正四十三歳の像と猿が金鷲童子(こんじゅ)とどうじを抱いた像が安置されている。  
大山観光青年専業者研究会  
2019/02/16



良弁滝



良辯滝  
大山寺開山(天平勝宝七年七五五年)に良辯僧正が入山、最初に水行を行った所。高さ一丈三尺(三メートル九四センチメートル)江戸時代、たびたび錦絵や版画の題材に取り上げられ、大正時代には、歌舞伎「大山と家光」で「大山良辯滝の場」として演じられた。  
大山観光青年専業者研究会  
2019/02/16



傾斜のあるとうふ坂を上ります  
ゴールはもうすぐです！  
頑張りましょう！



江戸時代より参拝者たちがとうふを手のひらに乗せ、すすりながらこの坂を登ったという。昔ながらのたたずまいが数多く見られる参道である。大山観光青年専業者研究会

今は両サイドとうふのお店と先導師（江戸時代大山詣りの案内人の宿であった旅館街商店になっています）今日最後の登り坂サービスです！頑張っています。



とうふ坂を登りきると再び鈴川を下り、大山ケーブルバスバス停に行きます 14:40



15:03のバス待ち 伊勢原バス停行15:20

全員揃っております、熊坂Lご苦勞様でした



熊坂L「お疲れ様でした21,000歩14kmとします。次回最終3月16日(土)④大山登山参加しない人手を挙げて下さい」小生も含め相当おられました。

編集後記：今日は日本晴れで大山も青空のもとに見え、距離も短く最高のウォーキングでした。柏尾通り大山街道を往くシリーズ2回しか参加出来ませんでした。柏尾道初体験で④を除き比較的平坦地歩きで江戸時代に戻り歩く良いシリーズ企画でした。下見や詳しい地図他資料準備含め1人でされご苦勞様でした。いつものボケ防止用日記帳メモと写真です。失礼な記述や誤記があるかもしれませんが悪しからずお許しの程。説明文はHP他から引用しました。(私事で恐縮ですが最近ウォーキング後、左脚太ももが痛くなり、今回は下肢も痛くなり腰部脊柱管狭窄症からくると思われ、18日(月)のゴルフも止めました。このシリーズ④も行けませんが、KWCウォーキングもしばらくお休みになるかもしれません。